

「全国指導者育成委員長会議」に行ってきました

指導者育成専門委員会
委員長 幸丸政実

3月22日(日) ちょうど北海道バスケットボール協会の定例評議委員会が開催される日に東京で全国指導者育成委員長会議が開かれました。

私は日帰りで参加してきました。参加して今まで分からなかった組織のからくりや矛盾がわかりました。今回は日本バスケットボール協会と日本体育協会が目指す指導者の養成と資格獲得の全容を分かる限りでお伝えしたいと思います。

まず、指導者育成専門委員会と言う組織は平成17年度に発足し今期は2期目が終わろうとしています。北海道は平成19年度から組織を作りましたので2年遅れで発足したことになり参加した私は最初戸惑いました。

指導者育成委員会の役割も文章化されてきちんと決められていました。そのことを私は初めて知りました。その資料は [JABBA-NET.COM](http://www.jabba-net.com/jabba/data/paper/data_c_05.html) にアクセスすると見ることができます。
http://www.jabba-net.com/jabba/data/paper/data_c_05.html

指導者養成委員会の業務を要約すると次のようになります。

- 1、 コーチ登録届出書の管理を行う
- 2、 JABBA公認コーチの養成講習会及び指導員の専門科目の講習会を実施する
- 3、 JABBA公認コーチの登録業務を行う
- 4、 登録料の徴収を取りまとめる

今回の会議において各地の委員長の認識にずれがあり日バの理事の間でも考え方に開きがあることがわかりました。だからこそこの委員会を開催したのだと思いました。無理もないことですが、日バ協が1年半にわたってゴタゴタが続き、現在の執行部が発足したのは昨年10月で今年3月には任期切れになります。任期が終わる間に最後の仕事として指導者育成委員会の方向性を形作ろうと会議を持たれたことには敬意を表したいと思います。

ここで指導者と言う定義と資格についてしっかり理解していただくために整理してまとめてみたいと思います。

- 1、 日本体育協会ではすべてのスポーツ競技に公認スポーツ指導者制度を義務付けた。
- 2、 日体協では「公認スポーツ指導者」を4種類に分ける。
 - ① 指導員 (旧C級指導員)

- ② 上級指導員（旧B級、A級指導員）指導員を5年以上経験すると受験資格発生
 - ③ コーチ（旧C級コーチ）
 - ④ 上級コーチ（旧B級、A級コーチ）コーチを5年以上経験すると受験資格発生
- ※指導員、上級指導員の資格取得は都道府県体協と指導者育成委員会が共催して行う
※コーチ、上級コーチの資格取得は日体協と日バの指導者育成委員会が共催して行う
※①から④の資格取得のためには専門科目と共通科目を受講しなければならない

3、日バ協では日体協が主催する上記「公認スポーツ指導者」の資格を取りにくい指導者のために日バ協独自の「JABBA公認コーチ」という資格制度を作った。

どこが違うのか・・・何がちがうのだろう

「JABBA公認コーチ」は上記「公認スポーツ指導者」の①に該当する「指導員」の資格取得条件の「共通科目」を免除した「専門科目」だけ受講すれば与えられる資格である。（それゆえ、日体協の指導員より下位の資格である）

- 4、日体協では平成25年をめどに、国の予算が絡んで行われる「国体」のような競技には国が定めた「公認スポーツ指導者」の資格を所有しているものしかベンチに入ることができないようにする方向を打ち出してきた。すなわち「JABBA公認コーチ」の資格だけでは国体のベンチには座れないことになる。
- 5、 「JABBA公認コーチ」は「指導員」の資格の専門科目だけは取得しているとみなされるので、「共通科目」を受講することによって「指導員」の資格を取得できる。そうすれば国体のベンチに座ることができる。「共通科目」はNHKの通信教育で取得できる。

今回の会議で矛盾点が質問された。

- 1、 現在「JABBA公認コーチ」と「指導員」の両方の資格を所有している指導者は「指導員」の資格だけで十分「JABBA公認コーチ」の資格も満たしているのではないだろうかということ。だからJABBAの資格を放棄してもよいか？
- 2、「指導員」の免許更新は4年に1度で良いが「JABBA公認コーチ」の更新は2年に1度受けなければならない。おまけに受講料がかかるし登録料が二重にかかる。

※このことについては明快な回答がなく、次期執行部にはっきりとした結論を提示してもらおうことになりました。

※平成21年度における「JABBA公認コーチ」への還元

今まではエンデバーのDVDが配られた事がありますが、次回は日本バスケットボールコーチコミティー監修の本が全員に配布される予定です。

題名「**日本バスケットボールの未来を創る**」

あわただしい日程の中で行われた会議でしたが、指導者を育成するという非常に難しいテーマに対して執行部にはトップダウンで指導力を発揮してほしいという声が大きかったことを申し添えて報告に代えさせていただきます。